

# 聖隷 おのころ通信 3月号

2014.3.1 No. 168 今月のちこちばなし 胎児から赤ちゃんへ：産声の不思議

## 新病院移転・開院スケジュールについて

(スケジュール詳細につきましては中面をご覧ください)



当院は、来る平成26年4月1日(火)に移転(移転先：淡路市夢舞台1-1)開院を予定しております。これに合わせ現病院(淡路市岩屋38)は3月31日(月)をもって閉院することといたしました。

移転・開院に際しましては、一部診療制限等も予定しております。皆様にはご不便をおかけしますが、島内外の医療機関のご支援ご協力をいただき、円滑な移転・開院ができるよう努めてまいりますので、格別のご理解を賜りますようお願い申し上げます。

事務課 小松 佳史

## 新病院内覧会のお知らせ

**3月22日(土)午前9時30分～12時に  
内覧会**を予定しております。

予約不要、出入りは自由になりますので、皆様お誘い合わせの上、お越しいただきますようお願い申し上げます。

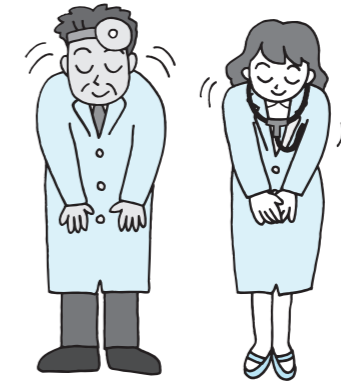
**聖隷淡路病院** 〒656-2401 兵庫県淡路市岩屋38  
TEL (0799) 72-3636 FAX (0799) 72-5071  
発行責任者 黒田勝哉 編集責任者 白井義隆

ホームページアドレス <http://www.seirei.or.jp/awaji/>

## 【移転・開院スケジュール】

3月22日(土) 内覧会 午前9:30～12:00 ※予約不要、出入り自由

	一般外来	救急外来
3月28日(金)	通常診療	17時～休止
3月29日(土)	休診	休止
3月30日(日)	休診	休止
3月31日(月)	休診	休止
下記 新病院日程		
4月1日(火)	休診	休止
4月2日(水)	通常診療	～8時30分 休止
4月3日(木)	通常診療	通常診療



## 【新病院概要】

- ・診療科目(予定) 内科、外科、整形外科、皮膚科、産婦人科 ※その他診療科目についても決まり次第連絡させていただきます。
- ・病床数 152床
- ・主な特徴

- 1、MRI、64列CTの導入による診療環境の更なる充実
- 2、産婦人科にて分娩受入開始(分娩予定日が8月1日以降の方より分娩予約を受付。)
- 3、手術室体制の充実(1室から2室に増室。バイオクリーンルームの設置。)
- 4、眼前に海が広がり、国営公園に隣接した自然豊かな立地(旧花博跡地)

- ・所在地 〒656-2306 淡路市夢舞台1-1
- ・電話番号 (0799) 72-3636 ※変わりません
- ・FAX番号 (0799) 72-5071 ※変わりません



## 聖隷淡路病院 緩和ケア相談窓口

がんなどの病気でお困りのことがありましたら、是非ご相談ください。

担当者：緩和ケアチーム(医師、看護師、訪問看護師、薬剤師、リハビリ、医療相談員など)

相談場所：1F 医療相談室 ※電話相談も可能です

相談日時：毎週木曜日(8時半～16時)

診察をご希望の方は、外来受診：黒田医師担当外来へお越しください。

黒田医師担当外来については裏面医師担当表にてご確認ください。

(緩和ケアチーム)

## お知らせ

○平日夜間、土曜日午後、日曜日、祝日の**時間外診療、救急受入**を随時しておりますので、お電話にてお問い合わせください。TEL:(0799)72-3636

○人間ドック、全国健康保険協会 健康保険生活習慣病予防健診、淡路市乳がん・子宮がん検診、淡路市国保特定健康診査等、各種健診を行っています。

人間ドック・各種健康診断・予防接種ご希望の方はお気軽にお問合せください。TEL:(0799)72-3636(平日8:30~17:00)

## 医師担当表 2014年3月

●午前診療● (祝・日休診)

診療科	月	火	水	木	金	土
内科 1	佐藤	—	佐藤	佐藤	佐藤	交代制
内科 2	白石	白石	白石	—	白石	
外科	黒田	大森	—	黒田	大森	
産婦人科	—	山本	—	岩崎	山本	
整形外科	吉原	吉原	吉原	吉原	—	
皮膚科	—	—	鄭	—	—	8日・22日

●午後診療●

総合診療科	大森	担当医	担当医	担当医	担当医	—
産婦人科	山本	山本	依藤	岩崎	山本	—
皮膚科	—	—	—	—	鄭	—

■ 第2週目、4週目以外の土曜日は外来担当医師が交代で診察いたします。担当医については変更となる場合がございますので、予めご了承ください。

■ 内視鏡検査は、火曜日と木曜日に行っています。

■ 救急対応や手術等のため診療受付時間が変更となる場合がございます。予めご了承ください。

外来受付時間 午前 7:30~11:30 診療は 9:00~(祝・日休診)  
午後 13:30~16:30 診療は 14:00~(祝・土日休診)

☆急病患者様は、お電話にてご連絡ください。Tel.(0799)72-3636

入院面会時間：20:00まで

# ドクターおのころの ちよこつばなし

## 胎児から赤ちゃんへ：産声の不思議

● 胎児は受精から産まれるまで子宮の中で育ちます。当然産まれてくるまで一度も空気に触れたことはなく、肺で呼吸もしていません。しかし子宮の外での生活をするためには肺で呼吸をしなければなりません。胎児から赤ちゃんになるには呼吸以外にも子宮の外での生活に様々な適応が必要となります。今回は呼吸の開始についてお話しします。

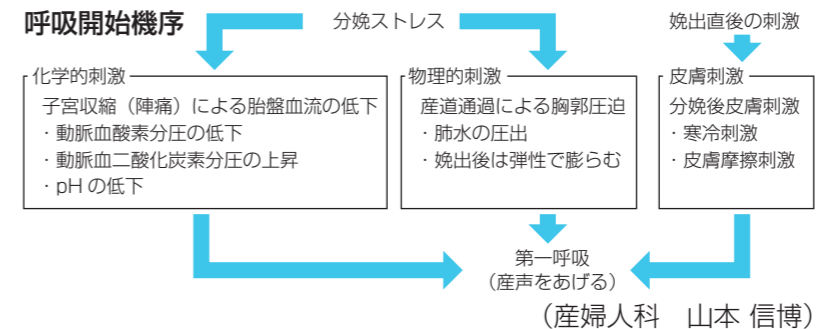
● 娩出直後新生児の第1呼吸（産声）が開始されるには呼吸中枢が働くことと、気道（空気の通り道）が確保されていることが必要です。

● 呼吸中枢が働き出すためには呼吸中枢が刺激されなければなりません。経膈分娩では分娩の経過中に陣痛によって胎児にストレスが加わり、この分娩ストレスによって胎児の血中酸素濃度の低下・血中二酸化炭素濃度の増加が起き、皮膚刺激なども加わり、呼吸中枢が刺激され呼吸中枢が働き出します。

● 胎児は羊水の中で育ちますので当然口の中も気管も肺も液体で満たされています。このままでは空気が肺の先（肺胞）まで届きません。この液体（肺水）が気道から無くなる必要があります。経膈分娩では、肺水のおよそ1/3が産道通過時に胸（胸郭）が圧迫されて鼻や口から絞り出されます。また分娩ストレスにより各種ストレスホルモンが分泌され肺胞の周りのリンパ管から肺水が吸収されやすい状態になります。産道通過中に圧迫されていた胸郭が娩出後はその弾性で膨らみ、これによって空気が気道に流れ込み、肺水を肺胞周囲のリンパ管に押し込むようにして残り2/3の肺水が生後肺循環に吸収されます。この結果赤ちゃんは第一呼吸（産声をあげる）出来るようになります。

● このように陣痛はただ胎児を物理的に押し出すだけではなく、胎児にとっては赤ちゃんになるために必要な要素でもあります。

● 当院でも新病院移転後、今年8月分娩予定日の方から分娩のお手伝いをさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。



## ●無料低額診療事業のお知らせ●

当院は社会福祉事業法にある「無料低額診療事業」を実施している病院です。経済的理由等により医療サービスを受けられない方への支援を積極的に推進する事業所です。制度の利用については、医療相談室へご相談ください。

医療相談室（社会福祉士：島田） TEL：0799-72-3640